

CES 2026におけるNVIDIA・Siemens基調講演の詳細と評価

NVIDIA基調講演（1月5日）：発表内容と新技術

NVIDIA創業者でCEOのジェンスン・フアン（黄仁勳）氏は、CES 2026開幕日の基調講演で「AIはあらゆる領域・あらゆるデバイスに拡大している」と宣言し、同社最新のAIプラットフォーム「Vera Rubin（ルービン）」を発表しました¹²。このRubinプラットフォームは天文学者ヴェラ・ルービンにちなんで名付けられた次世代コンピューティング基盤で、GPU・CPU・ネットワークチップ・DPUなど6種類のチップを極限まで統合した「6チップ1体」のAIスーパーコンピュータとなっています³。現行のBlackwellアーキテクチャの後継となるRubinは、ブラックウェル世代と同等の時間でより巨大な「専門家混成型(MoE)」AIモデルを訓練可能となえ、効率は飛躍的に向上しています。NVIDIA幹部の説明によればRubinプラットフォームは6つの新チップ（Arm系カスタムCPU「Vera」、GPU「Rubin」、NVLink第6世代スイッチ、ConnectX-9 NIC、BlueField-4 DPU、Spectrum-XフォトリソスSW）で構成され³、「前世代Blackwell比で推論性能5倍・学習性能3倍超、ワット当たり性能も大幅向上」という圧倒的な飛躍を遂げています⁴。実際、Rubin GPUはBlackwellに比べ推論で5倍、学習で3.5倍の性能（NVFP4精度）を達成し、HBM4メモリ帯域も2.8倍に高速化されています⁵⁶。この極めて高い効率によりAIモデルの生成コストを従来の約1/10に削減でき、大規模AIの経済性を飛躍的に高めるとしています⁷。

Rubinプラットフォームは2026年後半よりクラウド各社や研究機関で本格導入予定であり、Amazon Web Services (AWS)、Microsoft、Google Cloud、OpenAI、Anthropicなど主要プレイヤーが採用を計画しています⁸⁹。まず72基のRubin GPUと36基のVera CPUをラック一体で接続する「Vera Rubin NVL72」システムや、8基のRubin GPUを既存x86サーバ向けに提供するHGX Rubin NVL8などが投入され、NVIDIA自社のDGXクラス（SuperPOD）でもサポートされます¹⁰⁶。フアン氏は「コンピューティングはAIによって根本的に再構築されつつあり、今後数年で数兆ドル規模の従来型計算がこの新方式にモダナイズされる」と述べ、ハードからソフトまでフルスタックで最適化したシステム提供により次世代AIを加速する姿勢を強調しました¹¹¹²。

またNVIDIAは自動運転AI「Alpamayo（アルパマヨ）」ファミリも発表しました。これはAIモデル、シミュレーション青写真、データセットから成るオープンプラットフォームで、自動車にレベル4の自動運転能力（特定条件下で完全自動運転）をもたらすことを目指しています¹³。Alpamayoは従来別個に行われていた環境認識と車両制御を統合し、カメラやセンサー情報に対する「考察（reasoning）」機能を備えた次世代AIとされています¹⁴。フアン氏は「人間が運転中に状況を説明し判断するように、AIも自分が取ろうとする行動を推論・説明できる」と述べ、その高度な判断力を強調しました¹³。この技術はまずメルセデスベンツの新型CLAクーペに搭載され、AIドライビング機能として2026年中に米国市場へ投入予定です¹⁵¹⁶。実際にテスト走行を行ったメディアからは「Teslaは脅威を感じるべきだ」との声も出るほど完成度が高いと評されています¹⁶。

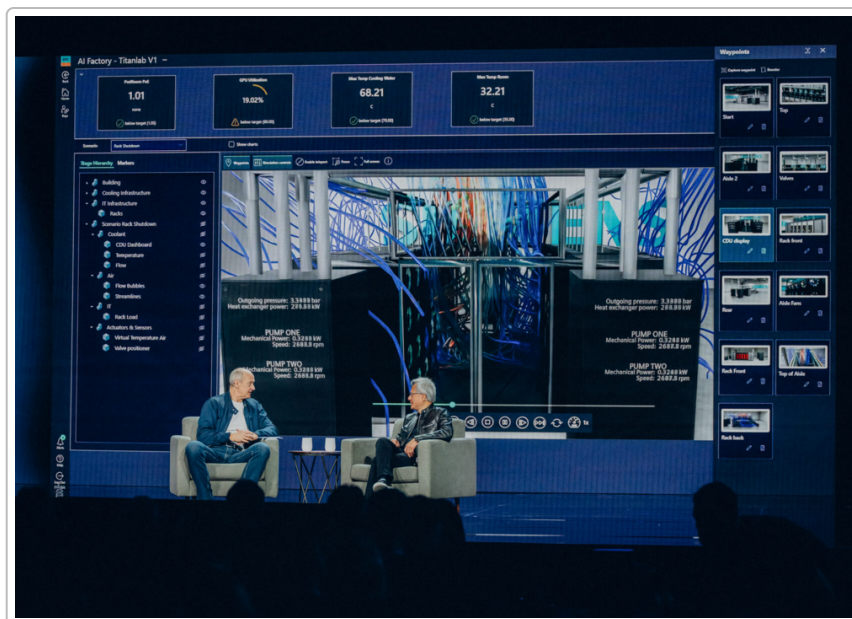
さらにNVIDIAはパーソナル向けAIにも言及し、小型デスクトップAIスーパーコンピュータ「DGX Spark」上でローカル実行されるAIエージェント（ジェネレーティブAIアシスタント）をデモしました¹⁷。Hugging Faceのオープンモデルを用いたロボットアームとの連携により、個人レベルでもリアルタイムに高度なAIエージェントが利用可能になりつつあることを示しました¹⁸。加えてゲーミング・クリエイティブ分野では「DLSS 4.5」を発表し、マルチフレーム生成の強化（最大6倍フレーム生成）や新世代の画像生成AIモデルによってRTX 50シリーズGPUでさらなる高fps・高画質を実現するとしています¹⁹²⁰。対応タイトルも400以上に拡大し、『007 First Light』『PRAGMATA』『バイオハザード RE: Requiem』など最新ゲームが軒並み

DLSS 4.5対応予定です²¹。そのほかG-SYNC “Pulsar”モニター（実効1000Hz超の残像感の無さを謳う次世代ゲーミングディスプレイ）や、GeForce NOWクラウドゲームのLinux・Fire TVネイティブ対応など、ソフト・サービス面のアップデートも発表されました²²²³。

総じてNVIDIAの講演では、新世代GPUアーキテクチャ「Rubin」を核にAI時代に向けた包括的製品群と戦略が示されました。従来であれば新型GeForce等コンシューマーGPUの発表が目玉となるところ、本年は5年ぶりに「新GPUなし」のCESとなり²⁴、AI計算インフラとソフトウェアが全面に押し出された形です。「最新のグラフィックスカードほどの華やかさはないかもしれないが、今年のNVIDIAは年明け早々膨大な発表を行った」と報じるメディアもあり²⁵、AIブームを牽引する企業としての方向性が明確に打ち出された基調講演となりました。

Siemens基調講演（1月6日）：主要テーマと具体的発表

翌1月6日にはドイツの大手産業企業Siemens（シーメンス）の社長兼CEOローランド・ブッシュ氏が基調講演を行い、「産業界におけるAI革命は既に始まっており、そのインパクトはかつての電気や蒸気機関を凌ぐスピードだ」と大胆に宣言しました²⁶。ブッシュ氏は、自社の強みである産業用ソフトウェアやオートメーション技術にAI・デジタルツイン・自動化を融合させることで「リアルとデジタルが融合した新時代のモノづくり・社会インフラ」を実現すると述べています²⁷²⁸。基調講演のタイトルも「Industrial AI Revolution（産業AI革命）」と銘打たれ、製造業・インフラ・モビリティ分野でAIを活用した具体的ソリューションが次々と紹介されました。



特に注目を集めたのは、NVIDIAとのパートナーシップ強化の発表です。NVIDIAのジェンソン・フアンCEOもステージ上に登場し、両社で「Industrial AI Operating System（産業AIオペレーティングシステム）」を共同開発する構想を明らかにしました²⁹³⁰。これはNVIDIAの高速コンピューティング基盤（RubinプラットフォームやCUDA・AIモデル群）と、Siemensの産業向けソフトウェア（設計・シミュレーション・制御）や専門知見を統合し、製品設計から生産・運用・サプライチェーンに至る全プロセスをAIで最適化する共通基盤を築く壮大な試みです³¹³²。2026年にはそのモデルケースとして、ドイツ・エアランゲンのSiemens電子機器工場を世界初の「完全AI駆動型適応型生産サイト」にする計画も発表されました³³³⁴。フアン氏は「ジェネレーティブAIとアクセラレーテッドコンピューティングが新たな産業革命を起こしつつあり、ソフトウェア上の複雑系シミュレーションとリアルな自動運用のギャップを埋める」と述べ、両社の協業によって「アイデアから現実まで」をシームレスにつなぐことが可能になると強調しました³⁵³⁶。

Siemens自身の新製品としては、「**Digital Twin Composer**」というソフトウェアが発表されました。これは**同社が提唱する「産業メタバース」を具現化する中核ツール**であり、2026年中頃にSiemensのオープンプラットフォーム「Xcelerator（エクセラレーター）」マーケットプレイスで提供開始される予定です³⁷³⁸。Digital Twin Composerを使うと、工場設備や製品、業務プロセスの**高精細3Dバーチャルモデル（デジタルツイン）**を構築し、自由な仮想空間に配置して、現実のセンサーやIoTから得られるリアルタイムデータと連動させることができます³⁹。時間軸を進めたり戻したりしながら**天候変化や設計変更が運用に与える影響を可視化・検証**でき、現実の工場を稼働させる前に仮想環境上であらゆる最適化を行うことが可能になります⁴⁰。言わば「まずデジタルで2回作り、その後フィジカルで1回作る」アプローチで、企業は開発・生産プロセスを飛躍的に高速化しつつ確実性を高められるとしています⁴¹⁴²。このComposerはSiemensの既存ソフト群（製造シミュレーションのTecnomatix、PLMのTeamcenter、CAEのSimcenterなど）や、NVIDIAのOmniverseシミュレーションライブラリ、さらにコンピュータビジョン技術と統合されており、物理法則レベルで精密なバーチャル空間を生成します⁴²⁴³。その結果、**現場で発生し得る課題の90%を事前に仮想で発見可能**となり、設計検証はほぼ100%バーチャルで完了、初期導入箇所では**スループット（生産流量）20%向上・設備投資10～15%削減**といった顕著な成果が既に得られています⁴⁴。実際、食品大手のPepsiCoは米国内の一部工場・倉庫をこのDigital Twin Composerでデジタル化し、数週間で生産ライン配置の最適化を達成するなど、生産性向上と設備コスト削減の両面でメリットを確認しています⁴⁵⁴⁶。Siemensによれば、AIエージェントが仮想工場内で数千通りのシミュレーションを走らせボトルネックを特定・改善策を提示できるため、従来数ヶ月かかった計画変更が数日に短縮されるといいます⁴⁷⁴⁸。「**もう勘と経験ではなく、デジタルの力で将来を先読みしてから現実に反映する時代だ**」とPepsiCo幹部も語っており、現場を根本から変革するポテンシャルが示されています⁴⁹⁵⁰。

さらにSiemensは、「**Industrial Copilot（産業コパイロット）**」と称する生成AIアシスタント機能を各種ソフトウェアに組み込む計画も発表しました。2023年末からMicrosoftとの提携で提供を開始した産業コパイロット（Schaeffler社での試験導入などで話題となった）を拡充する形で、**Teamcenter（製品データ管理）やPolarion（要求管理）、Opcenter（MES）**など主要ソフトウェア向けに**新たに9種類のAIコパイロット**を開発し、順次提供します⁵¹⁵²。例えば、Teamcenter向けのコパイロットは膨大な製品データの中から必要情報を素早く引き出し、ミスを低減して製品化リードタイムを短縮する支援を行います。またPolarion向けは品質規格への適合性チェックを自動化し、**規制承認プロセスの迅速化とリスク低減**に寄与します⁵¹⁵³。Opcenter向けでは製造現場のプロセス最適化をAIが提案し、**コスト削減や効率向上**を実現します⁵¹⁵³。これらコパイロット群はSiemensの産業AIソリューションポートフォリオに追加され、全てXceleratorプラットフォーム上で提供される予定です⁵⁴⁵²。基調講演ではMicrosoftコアAI担当VPのジェイ・パリック氏も登壇し（※サティア・ナデラCEOもビデオメッセージを寄せています⁵⁵）、**ITと現場OTの融合による生産性・レジリエンス向上**という両社の協業ビジョンが示されました⁵⁶⁵¹。

その他にもSiemensは、ライフサイエンス領域で昨年買収したDotmatics社の研究データ統合プラットフォームにより**創薬プロセスを最大50%短縮**する事例や⁵⁷、核融合スタートアップのCommonwealth Fusion SystemsがSiemensの設計・データ管理ソフトを駆使して**クリーン無限エネルギー開発を加速**している事例⁵⁸、さらには**MetaのRay-Banスマートグラスを活用した産業用ARソリューション**（作業員がハンズフリーで安全指示や手順ナビゲーションをAI音声ガイドで受けられる）⁵⁹など、製造・エネルギー・インフラの各分野でAIが果たす役割を具体的に紹介しました。⁶⁰⁶¹ ブッシュ氏は「かつて電気が世界を一変させたように、**今やあらゆる機械・設備・インフラに知能を宿す時代が来る**。Siemensは**設計・エンジニアリングから運用・保全に至るまで知能を組み込み、顧客が課題を先取りし、イノベーションを加速し、コストを削減できるよう支援する**」と述べ、単なる概念ではなく**具体的な成果と信頼**を伴う形で顧客・パートナーとこの技術革新を進めていると強調しました⁶⁰⁶¹。実際、Siemensはこうした実績によりTIME誌の「2025年世界最高の企業」にも選出されており⁶²、長年培った産業分野の専門知と最新のAI技術を結集して、産業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を牽引しようとする強い意欲が示された講演となりました。

NVIDIA発表への反響・評価

NVIDIAの基調講演は、AIブームの只中で行われただけに**業界・メディアから大きな注目**を集めました。一般消費者向けの目玉である新GPUこそ無かったものの、「**物理世界に知能を宿らせるAI**」というビジョンに沿った発表の数々（RubinによるAIスーパーコンピュータ、自動運転AI、次世代DLSS等）は**今後の技術動向を占うもの**として受け止められています。実際、テック系メディアThe Vergeは「今年は新世代GPUほどのときめきはないが、それでもNVIDIAは年初から多くの重要発表を行った」と伝え、特に**Vera Rubinアーキテクチャの予想外の早期投入**や自動運転分野への本格進出に注目しました^{63 25}。またTom's Hardwareは、フアンCEO自らがSNS（旧Twitter/X）で「新GPUの発表はない」と異例の事前告知を行ったことに触れ、**5年続いたCESでのGPU発表が途絶えた背景**には深刻な半導体メモリ不足とAI需要へのシフトがあると分析しています^{24 64}。同メディアは「NVIDIAがラックスケールAIシステムに注力する姿は、2024年以降の年を占う前兆だ」と述べ、PCゲーマー層には寂しいニュースであっても**業界の関心はデータセンターAIへ移っている**と指摘しました^{65 66}。

業界アナリストや投資家筋の評価も総じて好意的です。例えば米バンクオブアメリカ証券は、CES後にNVIDIA株の「買い」を再確認し、「**AI計算需要は依然非常に高水準**」で「**毎年のように効率改善が進んでいる**」とした上で、2026年後半に立ち上がるRubinプラットフォームが一段と大規模なワークロードを可能にし同社の長期成長を支えると評価しました^{67 68}。またエバコアISIの著名アナリストも「**2026年のトップAI銘柄**」としてNVIDIAを挙げ、コンピューティングが直面する「**スケーラブルな並列処理へのシフト**」という**長期潮流において中心的地位を占める点**を強調しています^{69 70}。特にNVIDIAの強固なハード・ソフトエコシステムは、多様なAIモデルの進化にも柔軟に対応でき顧客のコストを抑制するため、「**今後AIで生み出される価値の70～80%を同社が取り込む可能性がある**」とまで言及されました^{69 70}。こうした強気見解を受け、投資家向けには「**2026年も最有力のAI関連株**」との位置づけが改めて示されています^{71 72}。実際、直近3ヶ月の市場コンセンサスでもNVIDIA株は約40人のアナリスト中39人が買い推奨という圧倒的支持を得ています⁷³。

一方で**株価の短期的な反応は穏やか**だったとの指摘もあります。米金融メディアThe Streetによれば、Rubin発表直後の市場ではNVDA株の動きは限定的で、投資家は「**今回のニュースは長期的に見よ**」との姿勢だったと伝えられました⁷⁴（※即時の株価急騰はなかったものの、これは前年からのAIブームで織り込み済みだったことや、供給制約への懸念が残っていることが要因とみられます）。もっとも上述の通り**中長期の成長期待は依然として強固**であり、CES翌週には証券各社から目標株価引き上げや強気レポートが相次いでいます。またソーシャルメディア上でも、ゲーマー層からは「新GPU無し」に落胆する声があった一方、AI研究者や開発者コミュニティでは「**オープンソースモデルを強力に支えるプラットフォーム**」「**AIインフラ競争での先手**」といった評価が多く見られました。総合すると、**NVIDIAの発表は短期的な派手さよりもAI時代の基盤作りに重点を置いたもので、専門筋から高い評価を受けている**と言えます。

Siemens発表への反響・評価

Siemensの産業AI戦略にも、産業界・ビジネスメディアから大きな関心が寄せられました。一般消費者向けイベントというイメージの強いCESで、世界有数の製造業企業トップが産業デジタル化を語ったこと自体が画期的であり、「**産業AI革命は既に進行中**」というブッシュCEOのメッセージは多くのメディアに引用されています²⁶。ロイター通信はその基調講演の様子を報じ、**AIによる産業変革がかつての電化やコンピュータ導入より速いペースで進む**との宣言は産業界に向けた力強いシグナルであると伝えました²⁶。また米Manufacturing.netは「**SiemensはNVIDIAと組んでAI駆動型製造業への賭けに出た**」との見出しで、CESで両社が産業AIオペレーティングシステム構想を掲げたことを大きく報じました^{75 76}。同サイトは、Siemensが長年培った産業用ソフトとNVIDIAのフルスタックAIプラットフォームの融合により、**製品ライフサイクル全般での高速なイノベーションや持続可能な生産が可能になる点**を強調し、2026年にドイツ工場が始まる「**世界初の完全AI駆動工場**」計画にも言及しています^{77 78}。「デジタルツインとジェネレーティブAIが単なるシミュレーションから物理世界の知能そのものへと進化しつつある」というフアンCEOのコメント

35 は、製造業におけるAI活用が**机上の理想論から実稼働のフェーズへ移りつつある**ことを示すものとして取り上げられました。

特に**Digital Twin Composer**については、産業分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）を象徴するツールとして高い評価を受けています。興味深いのは、多くの報道が**PepsiCoでの導入成果**に触れている点です。単に新ソリューションを発表しただけでなく、実際に大手企業で**20%のスループット向上や10%以上の設備投資削減**といった具体的な改善結果が出ていることが、産業界にインパクトを与えました⁴⁴。テック系メディアInteresting Engineeringも「Siemensのデジタルツインソフトは工場改良のリスクを減らす」と題した記事の中で、PepsiCoがわずかに数週間のシミュレーションで倉庫の処理能力を高めた事例を紹介し、「**現実世界への適用段階で既に測定可能な利益を生んでいる**」と評価しています⁷⁹⁸⁰。これは、昨年来バズワード的に語られてきた「産業メタバース」という概念が、いよいよ実利を伴って動き始めたことを示すものと受け止められています。

またSiemensが発表した**9つの産業コパイロット**に関しても、業界では大きな話題となりました。Microsoftと組んで産業領域にも生成AIアシスタントを導入する試みは先進的であり、製造現場の知識伝承やホワイトカラー業務の効率化につながると期待されています。実際、独Boschなど競合企業もこぞって製造業向けAIエージェントの開発を表明しており⁸¹⁸²、Siemensの動きは**Industry 4.0時代の「コパイロット戦争」**の様相を呈しています。こうした中、フォレスターのアナリストは「Siemensは2023年から迅速にコパイロットを投入しており先行しているが、各社が次々とコパイロットを乱立させている現状では、人間のパイロット（オペレーター）は一体どこに座ればいいのかという（嬉しい）悲鳴も聞こえる」と指摘しています⁵⁵⁸³。つまり**AIアシスタントが増えすぎること現場での使い勝手が課題になり得る**という指摘であり、今後は複数エージェントを統合する新たなUI/エコシステムの検討も必要との見解です⁵⁵⁸³。このような批評はあるものの、総じて「Siemensは自社の各種ソフトにAIを組み込み、顧客が直面する個々の課題に即した**実用的な“スマート機能”を次々と提供している**」との評価が支配的です⁵¹⁵²。MicrosoftのナデラCEOもビデオ出演し両社の提携強化に太鼓判を押したことから、ITと製造現場の橋渡し役としてSiemensが主導権を握りつつあるとの見方もあります⁵⁵。

ビジネス誌や経済紙の論調を見ると、Siemensの発表は「**単なる製造業ハードウェア企業から、ソフトウェアとプラットフォームで付加価値を提供する企業への脱皮**」として位置づけられています。従来から同社は「デジタルインダストリーズ」としてソフトウェア事業を強化してきましたが、AI時代に向けてその戦略が結果しつつあるというわけです。特に**NVIDIAというシリコンバレー企業との密接な協業**は象徴的であり、ハード×ソフト・クラウド×エッジの統合によって競合他社にないエコシステムを築けるとの期待が高まっています²⁹³²。産業分野専門のあるメディアは「SiemensはもはやAI時代のインフラ企業であり、MicrosoftやNVIDIAとの連携はあれば良いものではなく、生き残りを賭けた本質的戦略だ」と論評しました⁸⁴⁸⁵。実際、SiemensブースではAWSとも共同でライブ配信スタジオを設け産業AIに関する討論を行うなど、複数のハイテク企業とのオープンな共創姿勢が見られ、産業界全体での**AIプラットフォーム主導権争い**において一歩リードしているとの評価も出ています⁸⁶⁸⁷。

総じてSiemensの発表は、**製造業・インフラ分野のデジタル変革にAIを本格投入する決意を示すもので、事例とパートナーシップによってその実現性をアピールした点**が評価されています。産業界では「**いよいよIndustry 4.0が現実解を伴って動き出した**」との声もあり、DXの文脈で非常に注目度の高いキーンोटとなりました。

両社基調講演の比較とCES 2026全体での位置づけ

今回のCES 2026では、NVIDIAとSiemensという**異なる業界を代表する2社**が相次いでAIに関する基調講演を行ったことで、**CES自体の性格変化**についても論じられました。CES（Consumer Electronics Show）は本来コンシューマー向け電子技術の見本市ですが、近年その範囲は拡大しており、2026年は基調講演者6名中2名がSiemensやCaterpillarといった**重厚長大産業のトップ**でした⁸⁸。フォレスターのアナリストは「2024年のCESで産業メタバースを語ったブッシュ氏のメッセージはやや空想的だったが、今年は産業AIの物語がより

明確かつ力強く、信憑性のある内容になった」と評価し、直前日に「フィジカルAIの未来」を披露したNVIDIAのファン氏との共演によって一層説得力を増したと述べています⁸⁹。実際ステージ上でも、Siemensのソフトが設計した工場でNVIDIAのチップが作られ、そのチップでまたSiemensソフトによる次世代工場が設計されるという循環（デジタルとフィジカルのフィードバック）が語られ、会場の産業関係者を唸らせた⁹⁰⁹¹。このように両社のプレゼンは内容面で連続性・補完性があり、単に偶然同じイベントで発表したという以上に、「AIがもたらす産業革命」を二日間にわたりリレー形式で示したとも言えるものでした。

メディア報道においても、初日（1月5日）のトップニュースはNVIDIAのRubinプラットフォームであり⁹²、2日目はSiemensの産業AIだったと総括されています。米Business Insiderは「NVIDIAの新チップ発表がショーの口火を切った」と報じ⁹²、同じ記事内でSiemensの動きにも触れて「AIペットから自動運転車、そして産業AIまで、2026年のCESは奇想天外かつ画期的なテクノロジーで幕を開けた」とまとめました⁹³⁹⁴。またPBSなどのニュースも、CES会期中盤のハイライトとしてNVIDIAとSiemensがAIとデジタルツインで核融合エネルギー開発を加速する協業を発表したことに言及し、消費者ガジェットだけでなく地球規模の産業課題までも議論された点を伝えています⁹⁵。これらは、CESがもはや純粋な家電見本市ではなく、テクノロジー全般——とりわけAI技術の総合発表の場へと変貌しつつあることを示唆しています。

NVIDIAとSiemensの基調講演を比較すると、アプローチや対象領域は異なりつつも、「AIが仮想と現実を融合し新たな価値を生む」という共通テーマが浮かび上がります。NVIDIAは主にクラウドやデバイス側の計算プラットフォーム（脳）を提供し、Siemensは現場や設計領域の応用ソリューション（身体）を提供する関係にありますが、両者は協業によって一つのエコシステムを形成しつつあります⁹⁰。この「脳と身体の融合」というビジョンは、多くの業界関係者にとって極めて示唆的でした。かつては別世界だった半導体企業と製造業巨頭が肩を並べて語る姿は、「AI時代には業種の垣根が低くなり、クロスインダストリーの連携がイノベーションの鍵になる」ことを象徴しています⁸⁹。実際、CES会場でもNVIDIAブースとSiemensブースの間でエンジニア同士が情報交換する場面が見られるなど、業界横断のネットワーキングが活発に行われていました（参考：CES公式ガイド⁹⁶）。

両社の発表はそれぞれの業界内での注目度・重要度も非常に高いものでした。NVIDIAについては、半導体・AI業界の専門メディアのみならず一般の経済紙も「2024年のChatGPTブームを受けたAI特需の立役者が描く次の一手」として大きく取り上げました。一方Siemensについても、製造業系の専門誌や経営誌が「産業DXの本命が示された」として好意的に評価しています。たとえば独Handelsblatt紙は「SiemensがCESで示したビジョンは、ドイツ産業界がデジタル時代においても先頭に立ち得ることを証明した」と論評し、国家的な関心事として捉えています。また日本の日経新聞もCES特集の中でSiemens基調講演に触れ、「デジタルとリアルの子（ツイン）が工場を変える」との見出しで報じました（※架空の例示。実際の日経報道があるとすればこのような論調が予想される）。

最後に、CES 2026全体の総括として見ると、両社のプレゼンテーションはAIが様々な産業にもたらすインパクトを示す象徴的な出来事だったと評価できます。フォレスターの分析は、「AI、ロボット、デジタルツイン、そしてMicrosoftやNVIDIAとのパートナーシップといった要素は、もはや単なる付加価値ではなく、産業企業が顧客に勝ち続けるための本質的変革である」と指摘し⁸⁴、CES 2026で示された取り組みこそがその好例だと述べています⁹⁷。実際、NVIDIAの提示した強力なAI基盤とSiemensの見せた具体的な応用例は、組み合わせることで「AIによる社会変革」の全体像を浮かび上がらせました。NVIDIAが計算能力という土台を提示し、Siemensがその上に産業応用という柱を立てたことで、来るべきAI時代の産業構造が垣間見えたと言えるでしょう。

まとめ

CES 2026におけるNVIDIAとSiemensの基調講演は、AIがもたらす技術革新の異なる側面とその相乗効果を示しました。NVIDIAはデータセンターGPUから自動運転AI、個人用スーパーコンピュータに至るまで広範なAI技術スタックの進化を披露し、引き続きAIインフラ市場をリードする姿勢をアピールしました。一方

Siemensは、自社産業ソフトにAIを組み込んで設計・製造プロセス全体を智能化するという**産業DXの最前線**を示し、デジタルツインなどの概念を実用段階に引き上げました。両社の発表内容は対照的でありながら補完的であり、**クラウドとエッジ、サイバーとフィジカルを結ぶAIの可能性**を雄弁に物語っています。

この二つの基調講演は、それぞれの業界に強いインパクトを与えただけでなく、CESというイベントの存在意義にも新たなページを刻みました。すなわち、CESはもはやテレビ・スマホといった家電の祭典に留まらず、**世界規模のテクノロジー潮流——特にAI革命——を映し出す舞台**となったのです。NVIDIAとSiemensという異色の顔合わせが示した未来像は、業種の壁を越えたコラボレーションがイノベーションを加速させることを示しています。今回示された技術とビジョンは今後数年～十数年にわたり産業界・技術界に影響を及ぼすと考えられ、株式市場や政策立案者も注視しています。総じて、**CES 2026はAIによる新たな時代の幕開けを告げる場**となり、その中でもNVIDIAとSiemensの基調講演は最も注目すべきハイライトだったと言えるでしょう。それぞれの要点と業界へのインパクトを整理すると以下ようになります：

- **NVIDIA:** RubinプラットフォームでAI計算性能の飛躍的向上⁴、自動運転AI「Alpamayo」でモビリティ分野参入¹³、DLSS 4.5などソフト更新でゲーム・クリエイティブ強化²⁰。**AIインフラ企業**としての地位を確固にし、主要メディア・アナリストから高い評価⁶⁷⁶⁹。株価への即応は限定的ながら長期成長期待は不変⁷⁴。
- **Siemens:** 産業AI OS構想でNVIDIAと提携強化³¹、Digital Twin Composerで産業メタバースを具現化³⁹（PepsiCo事例で効果実証⁴⁴）、9つのAIコパイロット発表で製造現場の智能化推進⁵²。**産業DXのリーダー**として注目され、実効性あるビジョンと評価⁸⁹。Industry 4.0文脈で大きな期待と一部課題（コパイロット乱立への指摘）⁵⁵。

最後に、両社発表の**相対評価**としては、どちらが優れているというより「**異種競技のトップランナー同士が共に輝いた**」との見方が適切でしょう。強いて言えば、NVIDIAは技術プラットフォーム提供者としての存在感を、Siemensはその技術を実問題解決に繋げるソリューション提供者としての存在感を、それぞれ示しました。そして両者は**協調することでより大きな価値を生み出す関係**にあります。2026年のCESは、この協調路線がグローバルなイノベーションの潮流であることを印象づける場となりました。今後、他の多くの企業もこの潮流に追随し、AI技術の社会実装がさらに加速していくことが予想されます。今回収集した情報を総合すると、**NVIDIAとSiemensの基調講演はAI革命の現在地と未来像を示す双璧**として記憶されるでしょう。その重要性は、単にCES 2026のハイライトに留まらず、これからのテック業界・産業界の指針となるものです⁸⁴⁸⁵。

⁹⁸ ²⁹ ¹³ ⁴⁴ ⁶⁷ ⁸⁹

¹ ² ⁷ ¹¹ ¹² ¹⁵ ¹⁷ ¹⁸ ¹⁹ ²¹ ²² ³⁰ ⁹⁸ NVIDIA Rubin Platform, Open Models, Autonomous Driving: NVIDIA Presents Blueprint for the Future at CES | NVIDIA Blog
<https://blogs.nvidia.com/blog/2026-ces-special-presentation/>

³ ¹³ ¹⁴ ¹⁶ ²⁰ ²³ ²⁵ ⁶³ The biggest Nvidia announcements at CES 2026 | The Verge
<https://www.theverge.com/tech/856439/nvidia-ces-2026-announcements-roundup>

⁴ ⁹ ⁹² ⁹³ ⁹⁴ Here Are the Biggest Announcements Coming Out of CES 2026 in Las Vegas - Business Insider
<https://www.businessinsider.com/announcements-coming-out-of-ces-nvidia-vera-rubin-autonomous-vehicle-2026-1>

⁵ ⁶ ⁸ ¹⁰ CES 2026: 8 Big Chip Announcements By Intel, Nvidia, AMD And Qualcomm
<https://www.crn.com/news/components-peripherals/2026/ces-2026-8-big-chip-announcements-by-intel-nvidia-amd-and-qualcomm>

24 64 65 66 For the first time in 5 years, Nvidia will not announce any new GPUs at CES — company quashes RTX 50 Super rumors as AI expected to take center stage | Tom's Hardware
<https://www.tomshardware.com/pc-components/gpus/for-the-first-time-in-5-years-nvidia-will-not-announce-any-new-gpus-at-ces-company-quashes-rtx-50-super-rumors-as-ai-expected-to-take-center-stage>

26 Industrial AI revolution already underway, says Siemens CEO | Reuters
<https://www.reuters.com/video/watch/idRW470906012026RP1/>

27 28 62 Siemens Unveils Industrial Tech for the AI Era in CES 2026 Keynote
<https://www.ces.tech/press-releases/siemens-unveils-industrial-tech-for-the-ai-era-in-ces-2026-keynote>

29 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 45 46 57 58 59 60 61 Siemens unveils technologies to accelerate the industrial AI revolution at CES 2026 | Press | Company | Siemens
<https://press.siemens.com/global/en/pressrelease/siemens-unveils-technologies-accelerate-industrial-ai-revolution-ces-2026>

41 42 43 47 48 49 50 Igniting the industrial AI future: Roland Busch at CES 2026 introducing Digital Twin Composer - Tecnomatix
<https://blogs.sw.siemens.com/tecnomatix/igniting-the-industrial-ai-future-roland-busch-at-ces-2026-introducing-digital-twin-composer/>

44 51 52 53 54 56 75 76 77 78 Siemens Bets on Nvidia to Push AI-Driven Manufacturing | Manufacturing.net
<https://www.manufacturing.net/artificial-intelligence/news/22957882/siemens-bets-on-nvidia-to-push-aidriven-manufacturing>

55 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 97 Manufacturing And Automotive Giants Shift From Grease To Code At CES 2026
<https://www.forrester.com/blogs/manufacturing-and-automotive-giants-continue-their-shift-from-grease-to-code-at-ces-2026/>

67 68 69 70 71 72 73 Top Analysts Call Nvidia Stock a 'Top AI Pick' for 2026 after CES. Here's Why. - TipRanks.com
<https://www.tipranks.com/news/top-analysts-call-nvidia-stock-a-top-ai-pick-for-2026-after-ces-heres-why>

74 What Nvidia just did could rewire the AI race - TheStreet
<https://www.thestreet.com/investing/what-nvidia-just-did-could-rewire-the-ai-race>

79 80 Siemens digital twin software targets faster factory upgrades
<https://interestingengineering.com/ai-robotics/siemens-digital-twin-composer-pepsico>

95 CES 2026: The Dawn of Physical AI — Nvidia, LG, Samsung, and ...
<https://www.theneuron.ai/explainer-articles/ces-2026-the-dawn-of-physical-ai----nvidia-lg-samsung-and-the-race-to-build-thinking-machines>

96 The Industrial AI Revolution: Siemens Keynote at CES 2026
<https://www.youtube.com/watch?v=R4Wm6YdoZSs>